

2014年度の放射線検査室のスタッフは5月に新入職員が加わり、診療放射線技師6名（4月は5名）となった。

主な業務は一般撮影、造影透視、CT、MRI、骨密度測定で、救急外来に対しても24時間の対応を行った。

## 1. 2014年度の活動

### (1) 電子カルテ更新

6月の電子カルテと画像閲覧システムの更新は、業務が滞ることなく遂行され問題なく稼動している。また新たな機能も加わり、業務の効率化が図られ他部署サービスの向上、リスクマネジメントにも役立っている。

### (2) 日当直体制への移行

前年度まで勤務時間外の急患等に対しては、待機での対応をしていたが、2014年度より日直および当直体制へと移行した。これによって特に深夜帯の救急外来や入院患者の緊急検査に迅速な対応ができるようになった。

救急医療により深く関わることで、知識や技術の向上が図られた。今後は放射線診療業務だけではなく、関連部署の要望に応えられるように体制を強化、維持していきたい。

### (3) 業務範囲の拡大

スタッフが増加したことにより業務範囲の拡大の試みとして、前年度から乳腺超音波検査の技術習得を目標に、当院検査室の指導の下に研修を行っている。乳腺超音波検査の技術を習得することで、スタッフのスキルアップ、さらに乳腺外来や健診の業務を効率化し受診者へのサービス向上が図られると考える。

今後、関連部署と連携し円滑な業務が遂行できるよう協力していきたい。

## 2. 今後の展望

### (1) 済生会熊本病院との技術連携

放射線検査室の場合、新たな技術や知識の習得の手段は学会や研修会等への参加に頼るところが大きい、人員的に参加が困難なことが多い。そこで熊本病院放射線科に協力を依頼し、新たな技術連携の体制が構築できないか模索していく。

### (2) 腹部超音波検査への参入

乳腺に続き、腹部超音波検査に関しても診療や健診に参入できるように研修を開始できればと考える。実際に検査を行えるようになるまでには時間を要すると思うが、地道に努力していく。

### (3) 放射線機器について

全体的に機器の老朽化が見られる。関連部署、メーカーと機器の状況を共有し、計画的に機器の更新を行い、地域医療に貢献できればと考える。